先端科学技術研究科　修士論文要旨

所属研究室 （主指導教員）	インタラクティブメディア設計学 （加藤　博一　（教授））		
学籍番号	2411226	提出日	令和 8年 1月 20日
学生氏名	野口　翔平		
論文題目	VR を用いた撫でる対象の振る舞い変化が撫で行為のストレス軽減効果に与える影響		

要旨

人は動物を撫でてストレスを減らすことが可能だと言われているが、動物アレルギーや居住環境、飼育コストの高さから動物を撫でる環境を用意する難しさが制限として存在する。代わりに動物ロボットやVRペットが存在するが、導入・維持コストの高さや撫でた際に触覚を提示する技術的な難しさが課題である。この課題に対して本研究は、安価なクッションを撫でる物体として、VRを用いてその外見及び振る舞いを変化させるアプローチの有効性を考える。このアプローチを用いた際のストレス軽減効果に影響を与え得る要素として振る舞いに着目し、「撫でる対象が振る舞いを行うことは、撫で行為によるストレス軽減効果をどのように高めるのか」ということを問いとして設定する。関連研究と予備検討の結果から「振る舞いの情動的な違いは、撫で行為におけるストレス軽減効果を高める」と「振る舞いにおける情動状態の遷移は、撫で行為のストレス軽減効果を高める」の2つの仮説を立て、59名の参加者を対象にストレスタスク後と撫でタスク後の心理的及び生理的ストレス評価を比較する実験を行った。その結果、ストレスを抱えている振る舞いよりもリラックスしている振る舞いを撫でる方が心理的なストレスが軽減されることが示され、振る舞いをどのような情動状態だと解釈するかが撫でる際のストレス軽減効果に影響を与える可能性が示唆された。加えて、ストレスからリラックスへと状態が遷移する振る舞いを撫でる場合は振る舞いが一定の場合と異なり、情動状態への解釈以外の要因がストレス軽減効果に影響している可能性が示唆された。